# 東京秋工会

## 肩の力を抜いて、秋工生だったなつかしい頃に戻ってみませんか。

母校はまもなく９０周年を迎えようとしています。長い歴史とその伝統にはいまさらながら深い感銘を覚えます。私達は一時代を確実にそこで過ごしたわけですから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

長い歴史を特に強く実感できる場所、それは同窓会であるといえます。さまざまな世代がただ一つの思い、母校を同じくしたという理由だけで交流できるというのは歴史と伝統のある学校を母校に持ったものだけに許されることではないでしょうか。

１０月３日は東京秋工会の総会です。参加への想いは色々かと思いますが日常の忙しさからしばし離れて、秋工生だった頃にタイムスリップしてみてはいかがでしょうか。故郷のにおいをただよわせた、さまざまな世代の先輩・後輩があなたをお待ちしています。

●エッセイ

## 幼いころ〈二題〉

笹渕　茂　（２１Ｙ／現・首都圏男鹿の会副会長）

### (一) ヤッコの子

わたしの幼少時、近所に声の大きなおばさんがいた。
そのおばさんの子供はかなりの悪たれっ子だった。そこでよくしかられていた。
「んーン、なんぼしゃべても親のいうごと聞がねで。このヤッコ(こじき)の子！」
と自分の子をゴシャクのだ。
すると、おばさん自身はヤッコ？ ヤッコの子の親はヤッコということになる。
わたしはこども心にもそう思ったことがある。
そのヤッコの子.！ の発言のあとに、おばさんは決まって次のことを付け加えた。
「これだげしゃべてもわがらね子だば、こんど裏の川さ投げでやるからナ！」
ところが話とはウラハラに、
そのおばさんは、自分の子を一度も川に放りこんだことはない。

## (二) なまはげ

なまはげが男鹿地方の家々を回って歩くのは十二月三十一日の夜。
だが、昔は一月十五日だった。それも旧暦。深雪の時季だ。
なまはげは真山、本山の山奥から来るといわれていた。
カネづかいの荒い子、言うことを聞かない子をさらっていくために。

家の前まで来ると、「オロオロー！、オロオロー！」の叫び声が一段と居丈高に響く。
どうみても、いましがた人を食ってきたに違いないドスの利いた声だ。
「うちの茂はよく親の言うことを聞くから、なんとかごめンしてたンぇ。
なンも、なンも、昨日も二銭けれと言わねがたしがら」
「ンでね、ンでね。このなまはげ、シゲちゃんが二銭けれて言うのを
山でちゃんと聞いでいたド！　オロオロー！、オロオロー！」
そう、そのなまはげはなぜかわたしのことを“シゲちゃん”と呼ぶのだ。
「そうでねンす。おどどいも、さぎおどどいも、
ジェンコけれって言わねがたスもの」
「父さん、母さんうそマゲデも、このなまはげだばすぐわがる。
おどどいも、さぎおどどいも、一銭けれって言っていた！」
どうしてそのことが、なまはげにわかるのか不思議でならなかった。
物事のすべてを見通しのなまはげ。
この世に、なまはげほど恐ろしいものはないと思った。
なまはげは赤鬼・青鬼の対で来る。
もちろん恐さのあまり、顔を見る余裕などあろうはずがない。
「ええが！、シゲちゃんが言うごど聞がね時は、いづでも手三つたたいでけれ。
そうすれば、その音聞いてあの大山がら飛んできて、食ってしまうがらナ！」

次の年はわたしも考えて、押し入れに隠れることにした。
「オロロー！、オロオロー！、シゲちゃんどさ行った！」
「なンも、なンも、うちの茂は押し入れさも、便所さも、どこさも隠れていねス」
親はそう言ってくれたのだが、
「までまで、シゲちゃんのにおいが押し入れの方からするド！、
オロロー！、オロオロー！」
と、たちまちなまはげに見つけられてしまった。
しかし、なまはげがわたしの体に触れることは決してなかった。
父母がわたしをかばってくれたのだ。
親の愛情を、しみじみ感じたひと時でもあった。

## ●インフォメーション

●今年も東京秋工会総会開催のご案内をする時期となりました。この会報(？)をお届けするのは２度目となりますが、昨年好評だった笹渕先輩のエッセイを中心にした編集となっています。この会報(？)は、いわゆる会報を作ろうとして始めたものではなく、会員の皆様に何かアピールできるものを提供して、会の活性化に役立てられないだろうかという考えのもとに、昨年第１号を作ってみたわけです。できれば、もっと会自体のことや母校のこと、あるいは秋田のことなどをお知らせできるような会報らしい会報にしていければとは思うのですが……。それには、皆さんのご意見とご協力が必要です。総会の席でご意見等をぜひお聞かせください。また、昨年ご報告いたしましたように有志によるゴルフコンペを企画し、昨年の総会直前に第１回を、本年６月に第２回目を開催しており、今秋には第３回を予定しております。そうした秋工会を活性化するためのこんな企画やアイデアがあるという方はぜひ総会にご出席の上、ご意見等をお聞かせください。私達幹事一同は会をより楽しく活気のあるものにしていきたいと考えております。

発　行
〈東京秋工会〉幹事会

制作責任
斉藤右二郎(26M/東京秋工会幹事長)
レイアウトデザイン・イラスト
船木一美(48M)